

最近の豚熱・アフリカ豚熱 をめぐる情勢について

令和6年1月9日

消費・安全局動物衛生課

1. 豚熱 (CSF) について

- 原因：豚熱ウイルス（フラビウイルス科ペスチウイルス属。1本鎖RNA・エンベロープあり。）
- 宿主：豚、いのしし ※人には感染しない
- 分布：欧州、アジア、アフリカ、南米の一部の国々
※ 我が国では平成30年（2018年）9月に26年ぶりに発生。
飼養豚では20県、野生イノシシでは34都府県で感染確認（令和5年（2023年）年12月31日時点）。
- 症状・所見：急性、亜急性、慢性型等多様な病態を示す。
発熱（41℃以上）・食欲不振・神経症状・チアノーゼ（紫斑）等。白血球減少、内臓出血等。
- 対策・予防：飼養衛生管理の徹底。**有効なワクチンが存在。**
- 防疫対応：全頭殺処分。



(出典：農研機構 動物衛生研究部門)

2. アフリカ豚熱 (ASF) について

- 原因：アフリカ豚熱ウイルス（アスファウイルス科アスファウイルス属。2本鎖DNA・2重のエンベロップあり。大きい。）
※環境耐性があり、食肉・死体等でも長期に感染性保持。現在の世界流行株では急性経過で死亡。
→感染動物は急激に弱る・死亡＋死体のウイルスは長期残存→イノシシ感染事例では死体対策が重要
- 宿主：豚、いのしし（ダニによっても媒介） ※人には感染しない
- 分布：アフリカ、欧州の一部（ロシア及びその周辺国、東欧）のほか、**平成30年8月に中国で発生（アジアで初の発生）以降、アジア地域**での発生が拡大。※ **日本未発生。**
- 症状：甚急性～不顕性まで幅広い病態を示す。
(豚熱より白血球数はやや高め。甚急性では所見なく死亡することもある。)
※ **豚熱に酷似するがより病原性は強い傾向。**
- 対策・予防：水際対策の徹底（国内未発生）。飼養衛生管理の徹底。**有効なワクチンは存在せず。**
→豚における最強の悪性伝染病との評価も。
- 防疫対応：全頭殺処分。（豚熱と異なり、必要があれば予防的殺処分の実施が認められている。）



耳翼の紅斑（その後、死亡直前に紫斑）



元気消失・下痢

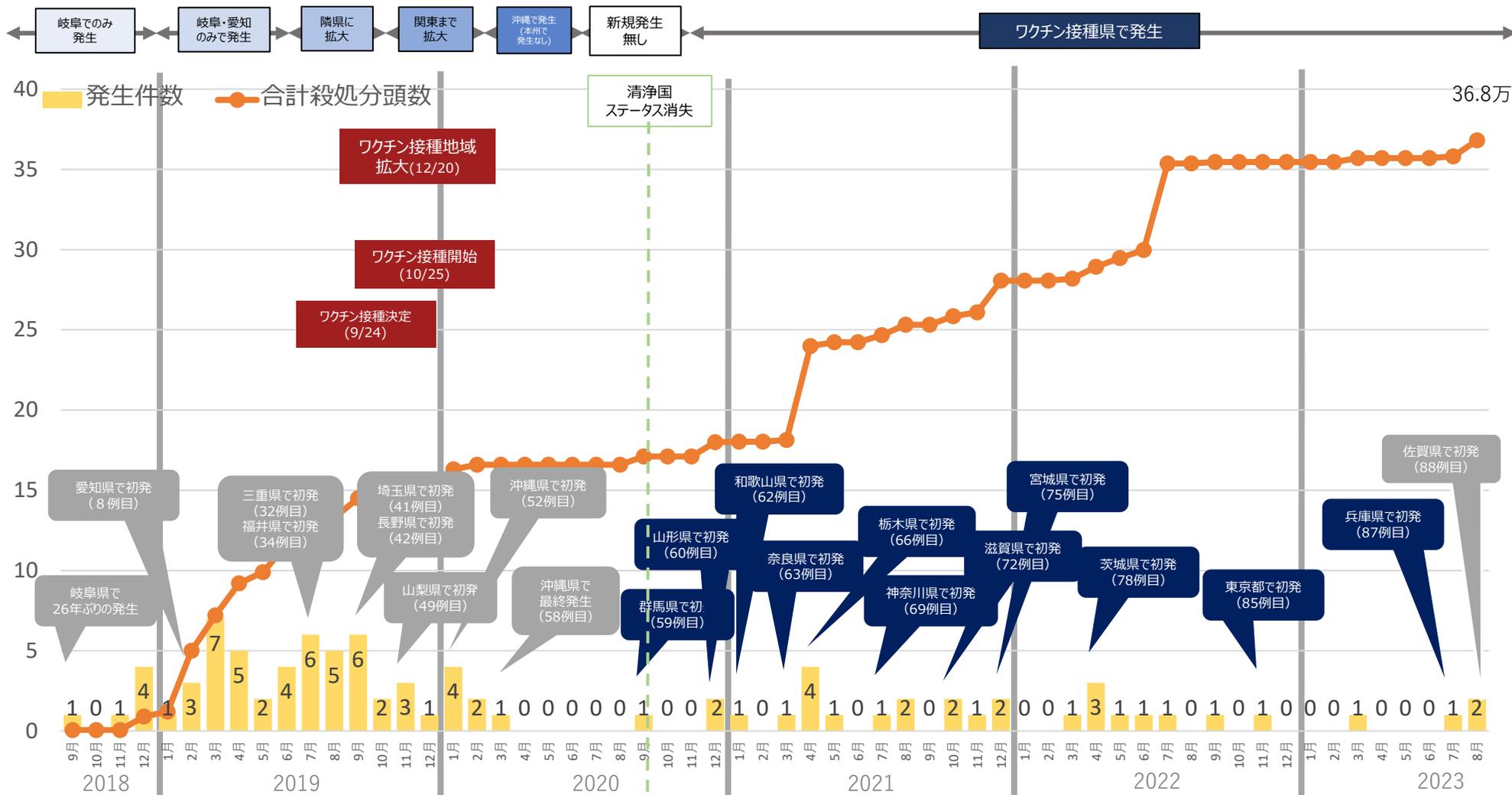


脾臓の鬱血性脾腫

(写真出典：農研機構 動物衛生研究部門)

3. 豚熱発生経過

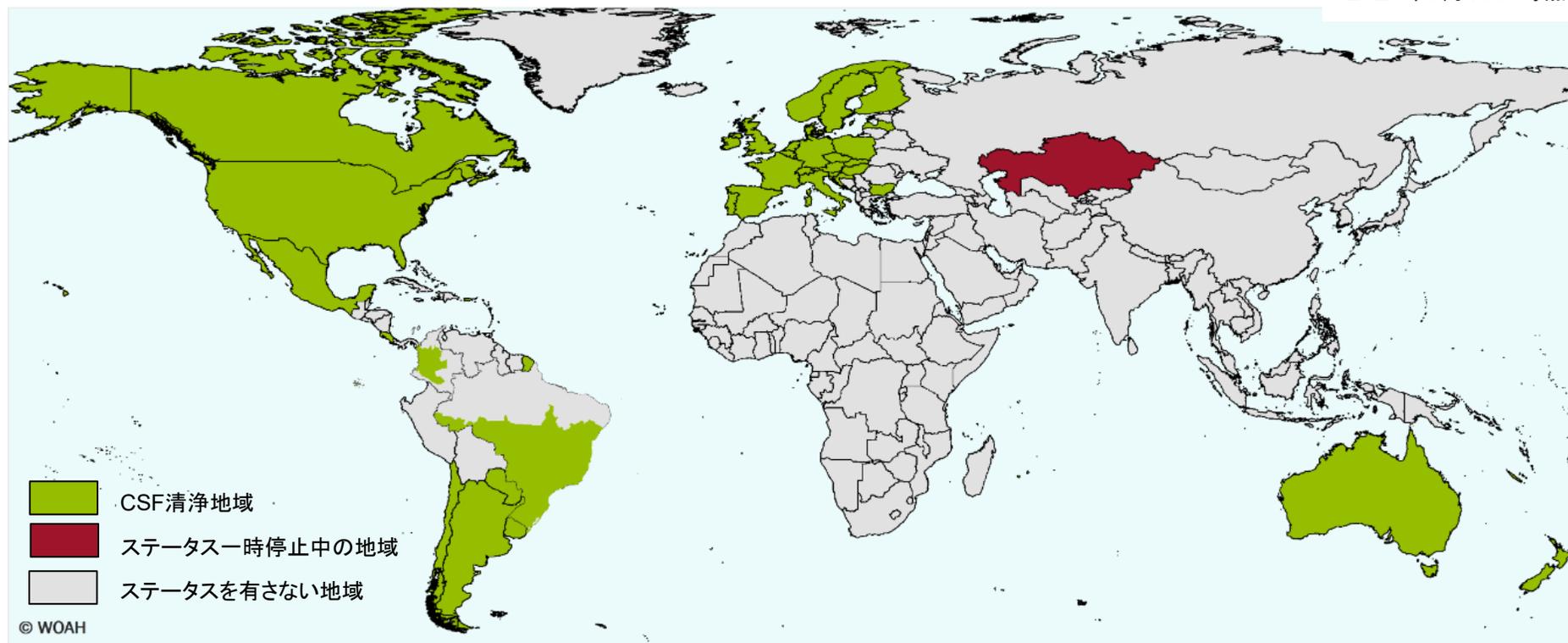
- 2018年9月9日の岐阜県での発生以来、愛知県、三重県、福井県、埼玉県、長野県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県、和歌山県、奈良県、栃木県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県、東京都、兵庫県及び佐賀県の20都県で計89事例発生し、これまでに約36.8万頭を殺処分。
- 2019年9月24日にワクチン接種を決定、10月15日に防疫指針を改訂、10月25日からワクチン接種開始。
- 2020年9月3日にWOAH（国際獣疫事務局）が認定する豚熱の清浄国ステータスを消失。
- 群馬県、山形県、三重県、和歌山県、奈良県、栃木県、山梨県、神奈川県、滋賀県、宮城県、茨城県、兵庫県といったワクチン接種県においても発生。



5. 豚熱 (CSF) のOIEステータス認定状況

Last update May 2023

2023年6月13日時点



全土がCSF清浄地域で構成されているOIE加盟国 (38)			
アルゼンチン	デンマーク	ルクセンブルク	スロバキア
オーストラリア	フィンランド*	マルタ	スロベニア
オーストリア	フランス*	メキシコ	スペイン*
ベルギー	ドイツ	ニューカレドニア	スウェーデン
ブルガリア	ハンガリー	ニュージーランド	スイス
カナダ	アイルランド	ノルウェー	オランダ
チリ	イタリア	パラグアイ	英国*
コスタリカ	ラトビア	ポーランド	米国*
クロアチア	リヒテンシュタイン	ポルトガル*	ウルグアイ
チェコ共和国			

CSF清浄地域を含むOIE加盟国 (3)
ブラジル
コロンビア
エクアドル

ステータス一時停止中のOIE加盟国 (1)
カザフスタン

*注釈については出典を参照

出典: <https://www.woah.org/en/disease/classical-swine-fever/#ui-id-2>